

「社会とつながるかたちの定義」



構造合理のかたち、施工方法・製作方法からのかたち、利用形態・運営からのかたち、環境から導かれるかたち、交換や調達からのかたち、経済性からのかたち、メンテナンスからのかたちなど様々なかたちの定義の要因が存在する。設計者はそれらを統合したかたちを考案する。建設において、設計されたものは他者によって製作・施工されなければならぬ。施工したかたちを実現するために、再現性を担保する必要がある。15世紀レオン・バッティスタ・アルベルティから始まる表記法による建設は、デザインを同一的に物質化することを目指したデザインプロセスの始まりである。そしてそれは現在においても一般的に行われる設計

計画面によって意図を他者に伝達するプロセスである。しかしこのプロセスにおいて設計者と施工者は完全に分断され、設計図は完全な状態を要求され、施工時の変更が許容されることは稀になる。このことによって設計はリスク回避と大量生産による経済性から標準化が進んだ。近代によって生まれた分断をつなぐ方法はあるのか。テクノロジーと職人の手仕事は混ざり合い、設計と施工が融合した工芸的ディテールや生産プロセスの再編。モノではなく議論のかたちの定義。総意の構築を行うことによる市民とのデザインプロセスの共有。かたちをどのように定義し、社会と接続させてきたのか。そのデザインプロセスを紹介する。

共催：日本建築学会、精密工学会、人工知能学会、日本機械学会、日本設計工学会、日本デザイン学会

Design シンポジウム 2023 基調講演

日時：2023年10月8日（日）17:00～18:00

会場：建築会館（日本建築学会）

〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号

1976. 山梨県生まれ
【経歴】
1999.3 東北大学工学部建築学科 卒業
2001.3 東北大学大学院工学研究科
都市建築学専攻 修士課程修了
【職歴】
2001-2008 土木デザイン事務所（東京）勤務
2008 フリーランス
2009-2012 Ney & Partners（ベルギー）
2012- 株式会社ネイ & パートナーズジャパン設立
【役職】
2012- 株式会社ネイ & パートナーズジャパン
代表取締役
2018- 法政大学専任講師
秋田公立美術大学非常勤講師
2022- 東北大学非常勤講師

橋梁を中心とした土木構造物の設計、民間メーカーとのプロダクトデザインなど構造（技術）的アイデアを軸に、デザインと構造が融合した切り口の提案を行っている。国内でのプロジェクトは、札幌路面電車停留所、三角港キャノピー、長崎駅前広場、出島表門橋、新大工歩道橋、新札幌アクティブリンク、虎ノ門一丁目Tデッキなど。

渡邊 竜一



©momoko japan



©momoko japan



©momoko japan



©momoko japan